

お忙しい中、恐縮ですがアンケートの記入をお願いいたします。「自分がやっているか」ではなく、各施設で取り組んでいるかをお答えください。やっているかわからない質問もあると思いますので、各施設の打ち合わせで管理者の説明を聞いてから、回答をお願いいたします。

	チェック項目	はい	一部は	いいえ	改善目標、工夫している点など	参考情報・改善点など
職員・体制整備	1 利用職員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7				国基準：利用者10名 24.7㎡以上に対し、はなえみ学舎 本荘キャンパス：115.9㎡（2階部分）はなえみ学舎 さくらキャンパス：101.6㎡（1階倉庫、2階休室を除く）はなえみ学舎 みくらまキャンパス：79.5㎡（2階）
	2 職員の配置数は適切であるか	7				国基準：3名（1施設あたり）に対し、はなえみ学舎全42名（常勤職員19.4名）2月1日現在
	3 職員の専門性は適切であるか	7				専任職員7名、心理士1名、社会福祉士1名、保育士9名、児童指導員6名、強度行動障害支援者5名、その他職員6名、（教員免許保持者12名、公式学習支援者7名含む）
	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか	7				
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7				毎年、規定どおり実施。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7				毎年3月にホームページで公開しています。
	7 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7				・本年度、身体拘束と虐待に関する研修を全職員が行った。 ・強度行動障害支援者研修に2名参加。 ・施設相対支援センター主催の研修に比べ16名参加。 ・児童発達管理責任者基礎研修に1名参加。 ・他、参加できる研修を適宜に配給し、希望により参加できるようにしている。
業務改善	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等サービス計画を作成しているか	7				・保護者や子ども、相談員、自発によるアセスメントの機会を必ず設けている。 ・学校との連携が必要な場合は、担任の先生も参加している。 ・そのアセスメントをもとに計画を作成している。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6	1			・心理検査や各種検査結果と聞き取りをもとに特性などを把握している。 ・アセスメントツールは簡形を配布。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	7				・活動プログラムの立案は管理者の打ち合わせや各施設で行い、役割分担してチームで行っている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7				・学習支援、スキルトレーニングの他、季節にあつた工作や外での活動、調理などを様々な支援の場を準備している。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して実施しているか	7				打ち合わせ、支援会議でそういった場を設けている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等サービス計画を作成しているか	7				集団活動を中心とし、適宜個別の支援を行っている。言語聴覚士、心理担当職員による高い専門性をいかした支援も活かされている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7				始めと終わりに支援会議が行えるよう、日報、名簿を毎日配布している。
	16 支援終了後は、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7				始めと終わりに振り返りが行えるよう、日報、名簿を毎日配布している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7				各施設でその日の支援に関する情報共有のバインダーを準備し、支援と子どもの様子について記録している。その記録をもとに保護者へ日々の様子を伝達している。また、その情報を元に管理者の打ち合わせや各施設の支援会議に活かすこととしている。
	18 定期的なモニタリングを行い、放課後等サービス計画の見直しを判断しているか	7				職員、保護者、相談員によるモニタリングを実施し、計画の見直しに役立っている。
適切な支援の提供	19 ガイドラインの原則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っているか	1	5	1		①自立支援と日常生活の充実のための活動、②創作活動、自然とのふれあい③地域交流の機会の提供④余暇の提供の全てを活動に組み合わせて取り入れている。今後は5領域に広げさらに充実した支援を行っていく。
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	7				各施設の管理者、自発管を中心に行っているが、利用者の状況によっては他の職員が参加することがある。
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	7				学校から配布される計画書や予定表、手紙通信などのコピーをもとに下校時刻を把握し、毎日出席表や送迎一覧表を作成している。変更があればその都度連絡し、トラブルがあればスタッフ間で密に連絡をとっている。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか					医療的ケアが必要な子どもは在籍していない。また、対応できる設備や職員準備できないため、今後も受け入れる予定はない。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を努めているか	7				就学前に利用していた保育園（小学1年新学期から利用する場合）保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等から聞き取りや訪問を全行っている。
	24 学校を卒業し、放課後等サービス事業所から24時間福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	7				障害福祉サービス事業所への訪問、情報共有のための担当者会議を学校の職員も含めて実施している。（本年度は卒業生1名）
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7				基幹相談支援センターの職員との情報交換や担当者会議の実施など密に行ってきた。基幹相談支援センター主催の研修や助言、情報は当施設にとって有益であり、助かっている。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		3	4		他の学童との交流は行っていない。利用者の兄弟や関係者との交流、ボランティア、アルバイトの高校生、学生との交流あり。
	27 「地域自立支援」協議会等へ積極的に参加しているか	7				由利本荘障がい者支援協議会による協議会、研修会に参加している。また、それに伴うメンバーでケース会議を行い、利用者だけでなく利用者の家族の自立支援等も担当している。
	28 口頭から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	7				支援や子どもの様子や発達、HUGシステムを通じて保護者に写真付きでお知らせしている。それに対する保護者からの感想や情報提供は自家で共有している。また、送迎時に保護者と会う機会もあるので、その際に情報交換をするように努めている。
関係機関や保護者との連携	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	7				共に子どもを育てていくための情報共有や希望による面談、相談、宿泊訓練などを行い、保護者の負担を軽減しながら子どものよさを伸ばさせていく共感的な場の設定は心がけている。
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7				ご利用前のお見学、契約時に説明をしている。また、不明な点があれば資料や実績表をもとにいつでも説明している。 月ごとの詳しい利用明細は毎月請求書とともに郵送している。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7				家庭訪問支援、事業所内支援（面談）などを行っている。職員の努力によって、家族だけでなく学校や他の福祉施設との連携も図ることができ、特に不登校や不登校の軽減、個々の子供の成長に対する一定の成果を出すことができた。 不登校児童生徒の親からの利用、保護者の勤務事情による早期支援、宿泊訓練なども行っている。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	7				1 父母の会は作られていないが、作られた場合は当該活動を支援して行く。保護者の交流を求め保護者と求めない保護者が混在しているのが現状のため、全保護者が参加する保護者会は設定していない。 公式学習の懇親会、説明会は行位盛り上がった。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7				特に事故や怪我、心の状態についてできるだけ丁寧に伝え、誠意を持って対応しているつもりである。苦情があった際は保護者の思いに傾聴し、丁寧に対応して行きたい。
	34 定期的にお便り等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7				各施設でお便りを毎月発行している。活動概要や行事予定、連絡等の情報はホームページや教育システムを使って発信している。また、重要なお知らせに関してはネットによる伝達だけでなく、文書を送っている。
	35 個人情報に十分注意しているか	7				守秘義務の宣誓をしている。日報も含め、子どもの情報の記載された文書を廃棄するときは必ずシュレッダーで処理するよう、各施設に準備している。
非常事態の対応	36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7				どのスタッフも保護者と子どもへの愛情を持って接しているのがありがたく、それが保護者に伝わっていることも多い。
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っているか	7				施設の広さ、職員数、子どもの特性などを考えて地域住民を招待するのは簡単なことではないと考え、みくらまの3館を活用してそういった機会を今後作って行きたい。
	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	7				緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルはホームページに掲載し、いつでも誰でも見られるように公開している。 緊急時の対応については、契約書にも掲載し、契約時に全保護者に確認していただいている。
	39 非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7				各施設で訓練を行っている。また、職員だけの訓練も行った。運動で使用する体育館が数箇所の避難場所になっており、送迎車や徒歩での集団移動を非常時の練習も兼ねて行っている。子どもの特性を考慮し、緊急ベルの使用、救出訓練などは行ってないが今後実施して行く。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7				虐待防止の研修を数回に分けて開き、全職員が参加している。 また、研修の報告書を作成し、管理者に提出している。
	41 どのような場合にもやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等サービス計画に記載しているか	7				身体拘束については、利用契約書にも掲載し、契約時に全保護者に確認していただいている。基本的にしないこととしているが、やむを得ずする場合は、基準の適理、「切迫性」「非代替性」「一時性」の三つの要件を満たし、かつ、それらの要件の確認等の手続きが極めて慎重に実施されるものと研修を受けている。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7				食物アレルギーに関しては契約時に確認している。イベント使用など医師の指示書のある利用者が、みくらま、土曜日の本荘に1名あり、イベントの保管場所、使用方法、練習などを行っている。
43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7				「ヒヤリハット」という言葉は使っていないが、管理者の毎日の打ち合わせ、支援会議などで、各施設での具体的な出来事や子どもの様子を共有している。	